

幻の広浜鉄道 遺構今福線について その5

嘉藤太史

1. はじめに

今福線研究分科会も5年目となった。今年度一番の話題は来年度、浜田市で行われることになった「今福線シンポジウム」への参画である。何故、参画出来るようになったのであろうか。

前年度に今福線マップが完成していたが、これとは別に今福線を訪れる人のための案内用小冊子の作成がまだでありこの費用が必要であった。出来上がったばかりの今福線マップを携えて市役所を訪れ市長に今福線にかける熱意を伝えた後、先の案内用小冊子の話を切り出そうとしたがその前に市長から「今福線シンポジウムをやろう」との話があった。

今福線シンポジウムを行う、と言う壮大な考えを前に小冊子の作成費用捻出と言う我々の小さな願いはどこかへ吹っ飛んでしまったのである。昨年2月の出来事である。

それは単にシンポジウムを開くだけでなく開くことによる経済効果を狙っているのである。今福線遺構見学バスツアー実施、宿泊者獲得、リピーター獲得等々戦略的であり、遺構による地域活性化が大きな目的である。

2. 第1回目合同現地踏査（昨年4月27日実施）

今福線には線路跡、トンネル、橋脚・橋台、橋が数多く残されている。その中で、何を見せれば来訪者は喜ぶのか。そのためには見せる遺構を絞り込むことが必要であり、浜田市も含めた合同現地踏査を行った。

写真は合同現地踏査の様子である。下府駅での挨拶から始まり、最初は光明寺近くの跨道橋

（カルバート橋）である。この橋は今後、交差点改良のため取り壊されることになっている（既に取



り壊されている）。奇しくも交差点改良の要因となったのは旧軌道敷である市道であることは時代の流れを感じさせると同時に、遺構に対する価値観（必要な物→無用の長物）の変化を思わせる。

この写真は有福第2トンネルの出入り口である。下府側は枝葉がなく見通しが良いが、下府川に面した反対側は竹林となっ



て遠くの景色すら見通せない状態である。ここに人を魅せつける価値があるのか。価値はなさそうであるが・・・。但し、竹林を伐採すれば遠くまで見渡せる場所である。

この写真は今福第四トンネル出口の1連アーチ橋である。大小の石、せせらぎ。遊ぶには良い場所であるが、市としては来訪者がまず安全か否かを考える。事故があった場合の責任は誰にあるのか。慎重にならざるを得ない。



この写真はおろち泣き橋である。皆、水音を確認すべくアーチの下を右往左往している。隣のアーチでは山水排



水管の落水の音が反響しており、新たな発見となった。排水管を上げたり下げたりして反響音の違いを楽しんでいる。

さて、アーチ橋からの水音が極く限られた場所でしか聞こえないのはアーチ形状と下を流れる川と位置関係と考えていた。しかし、最近、川の兩岸に育つ杉林の形状も関係することが判明した。杉林の伐採によって水音の場所が変わったのである。

今福線の売り物である水音が無くなっては大変である。この水音を科学的に解明し、周辺地形の改変がどこまで許されるか確認しておく必要があるだろう。

この写真は、この現地踏査時に新たに発見したものである。水嵩が下がり目でわかるようになったのだろう。円形橋脚の残骸であるが、人為的に切断した跡があり鉄筋も見えている。河川水位の上昇時の通水阻害となるためこのように処理したと考えられるが、これもまた時代の流れによるものだ。残っていれば見ごたえのある場所となっていただろう。惜しい。



この写真は新線第一下府川橋梁上での踏査写真である。隣には「天然コケッコー」で有名な旧線4連アーチ橋がある。第一下府川橋梁の躯体は強度的には問題ないが手すりが腐朽している。寄りかかれば手すり諸共川に転落してしまう危険がある。



現代の復旧技術を使えば手すりの取り換えは問題なく行えるが、当時の面影がなくなってしまう。今福線最大の見所であるため是非、来て欲しいが、安全性と現況保存及び予算を天秤に掛けながら最適な解決点を探る必要がある。

以上、この現地踏査により安全施設を整備するポイントを絞り込むことになる。安全施設とはバリケード、立て看板である。安全を最優先すると行きたい所にもいけない、しかし規制を緩めると事故発生の恐れがある。また予算も限りがある。考えどころである。

3. 第2回目合同現地踏査（昨年8月26日実施）

第1回目現地踏査を踏まえ、更にポイントを絞りこんだ。当日はあいにくの雨天であったが、地元や看板業者を加え実施した。より具体的に、どのような施設をどこにどれだけ設置するかを決定するためである。

島根県技術士会の立場は市のサポートである。予算は市が負担する。効果的なアドバイスを行い、無駄のない施設を設置してもらうため、責任は大きい。



4. 中国建設弘済会での発表

今福線マップは中国建設弘済会の援助を受けて作成できたものである。弘済会から発表依頼を受け、昨年6月21日に広島市で開催された「中国地方地域づくり等助成事業報告会」での発表となった。

この発表会は前年度、弘済会の援助で街づくり等、地域活性化に取り組んだ9団体9つの事業の成果発表会である。皆、地域活性化に取り



組む熱意は相当のものがああり、今福線マップは何やら場違いの感はあったがここまで来たら後には引けないため腹をくくって臨んだ。

ここまでの経緯、マップ作製の苦労話、これからの事、一生懸命伝えたいつもりである。他の団体には会場より沢山質問が飛んだが今福線は閑古鳥であり「このままではどんべか（＝最下位）?!」と。

最後は会場と審査員の投票による順位決定であるが、心配とは裏腹に5位になった。隠れファンが投票してくれたのだろう。苦労が報われたようである。



今回は和田副会長と2人で出席したが、高得点を狙うにはウェートの高い審査員票を得ることも重要であるが、会場からの投票をより多く獲得すること＝身内を大勢連れていくことも必要である。

最後は懇親会によりお互いの労をねぎらったり、また今後の今福線のアピールをした次第である。



また、来場の皆さんに持って帰って頂くために今福線マップを20部、他の団体のPR文書と並べて会場入り口に置いた。帰る際には他の団体のPR文書が残っている傍ら、今福線マップはきれいに無くなっていた。何とありがたいことだろう！。

4. これから

今年は今福線シンポジウム開催の年である。最高のシンポジウムとなるよう市のサポートを行うと共に、シンポジウム後についても継続して関与できれば良いと思う。尚、今福線マップは丸原にも現存する遺構を加えるため修正加筆を行うことになった。できる限りのサポートをするつもりである。

以上